

～人生100年時代を見据え、スポーツを通して、
健康で心豊かな暮らし、人と人とのつながり、まちの魅力向上をめざす～

基本方針

「誰もが、いつでも、どこでも、する・みる・支える、さまざまなかたちでスポーツやレクリエーションに親しみ、その環境をみんなで支え合うまちづくり」を市民、関係団体等と行政とが一体となって進める。人生100年時代を見据え、市民一人一人がスポーツを楽しむことで、健康や心の豊かさを享受するとともに、多様な仲間とつながる取組を推進する。スポーツと文化、産業、観光、環境、教育などがつながることで、京都のまちをさまざまな分野からより魅力あるものにする。

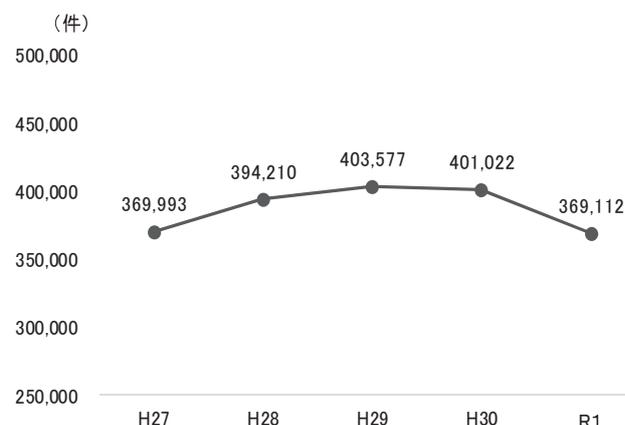
現状・課題

競技スポーツはもとより、生涯スポーツ、家族でのレクリエーション、市民同士の交流など、多様なニーズにこたえるスポーツ施設の提供が求められており、指定管理者制度※により、効率的で柔軟な施設運営を行っている。一方、厳しい財政状況の下、民間資金の活用に加え、引き続き府市協調による施設の整備や老朽化した施設・設備の計画的な改修が必要である。

地域密着型プロスポーツチームの試合や全国レベルの競技大会が市内の運動公園等で開催されるなど、市民がトップレベルのスポーツに身近に触れられる機会が提供されている。また、ネーミングライツ（命名権）等、企業による支援も進み、スポーツ振興に貢献している。

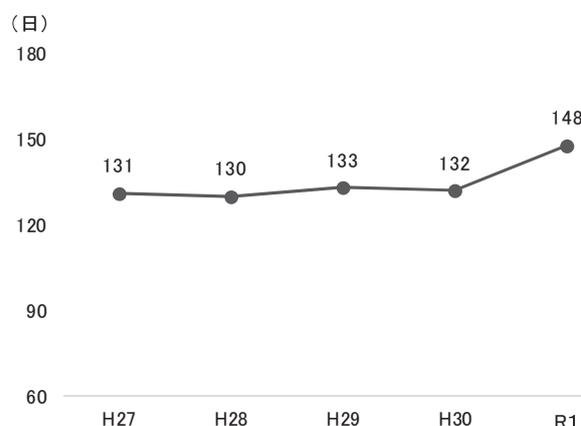
体育振興会やスポーツ推進指導員会は地域におけるスポーツ振興の原動力であり、健康寿命※の延伸や地域コミュニティの活性化にも大きな役割を果たしている。一方、体育振興会の役員や活動が固定化しており、また、スポーツ推進指導員の減少が進むなど、地域スポーツを支える新たな担い手の確保・育成が課題である。

スポーツ施設の利用件数は横ばい傾向
(文化市民局が所管するスポーツ施設の利用件数)



資料：京都市

年間を通じて多くのプロスポーツ・全国規模大会が開催
(京都市で開催されたプロスポーツ・全国規模大会の開催日数)



資料：京都市

※ 指定管理者制度：公の施設の管理運営に民間等の能力を活用し、住民サービスの向上や経費の節減等を図るための制度。

※ 健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

京都マラソンや駅伝大会などの大規模スポーツイベントは、市民スポーツの振興はもとより、文化をはじめとした京都の魅力の発信等、多方面に効果が波及している。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西等の大規模国際スポーツ大会の国内開催によるスポーツに対する関心の高まりを、一層のスポーツ振興と健康づくり、人のつながり、まちの魅力向上に結びつけることが必要である。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまなスポーツの競技大会やイベント等が中止・延期となっている。こうしたなか、運動不足やストレスの解消に加え、社会の活力の創出など、スポーツが果たす役割は重要であり、安全・安心にスポーツを楽しめる機会を提供していく必要がある。

みんなでめざす 2025 年の姿

1 スポーツを楽しみ、スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築いている

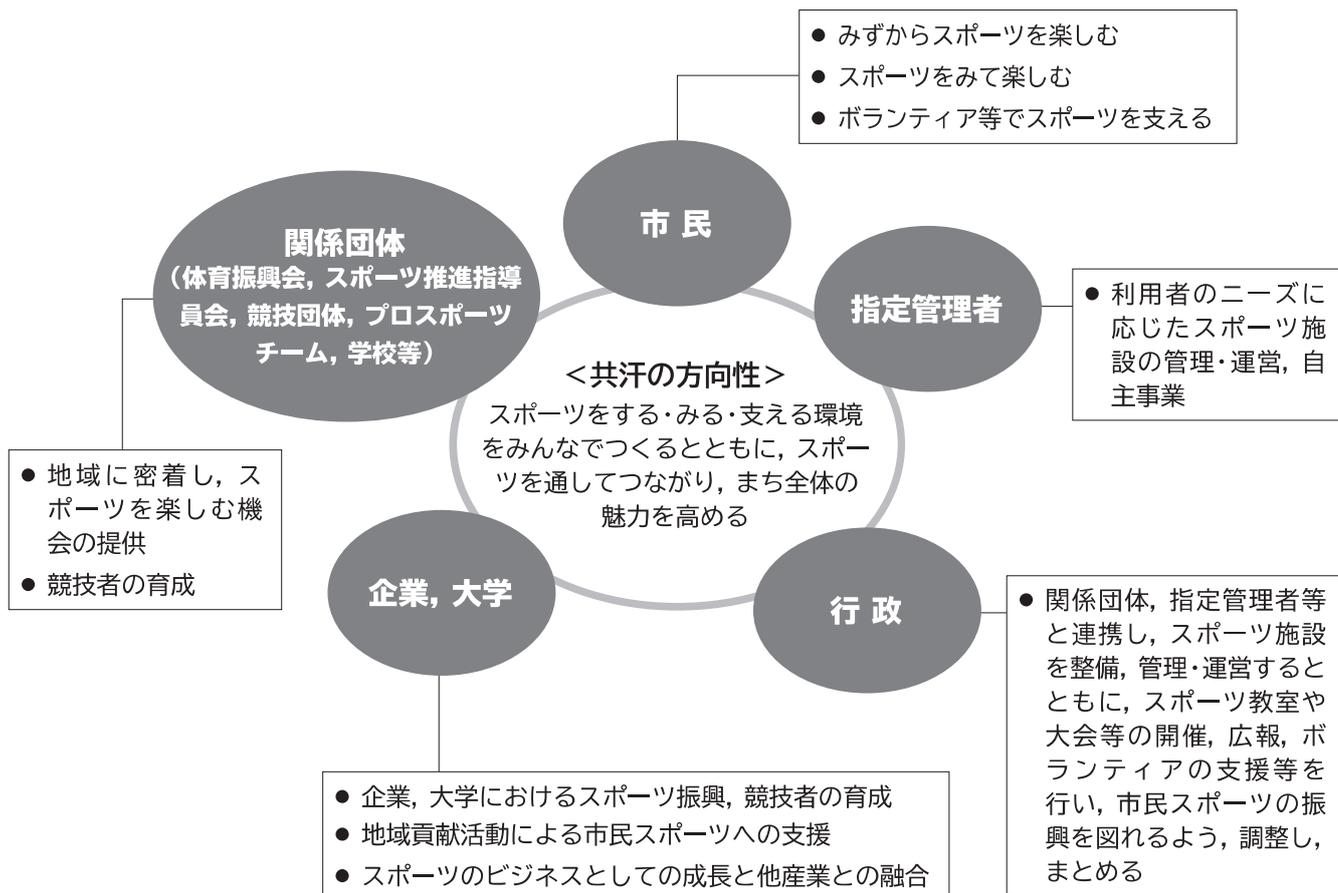
市民がそれぞれの個性、関心等に応じて生涯にわたって自発的にスポーツを楽しむことができる環境が整備されることで、スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築くことができている。

2 スポーツを通して、多様な人と人がつながっている

市民が年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、スポーツを楽しみ、その活動を支え合うことで、スポーツを通して互いの人格を尊重し、多様な人と人がつながっている社会を築くことができている。

3 スポーツを身近に感じ、スポーツがまちの魅力を高めている

市民がプロスポーツをはじめ、トップレベルのスポーツに身近に触れることができ、スポーツが文化、産業、観光、環境、教育など、さまざまな分野とつながることで、まち全体の魅力を高めることができている。



推進施策

1 スポーツが身近にある健康で心豊かなくらしの実現

(1) 施設の効果的・効率的な整備と運営の推進

スポーツ施設・設備について、整備を進めるとともに、効率的な管理や長寿命化計画に基づく計画的な改修等により延命と有効活用を図る。施設の運営については、指定管理者制度により、利用者本位に立った柔軟なものとし、ネーミングライツによる企業支援等も導入しつつ、安全・安心で良質なサービスの提供に努める。

(2) 競技環境と観戦環境の充実

国際大会や全国大会などの大規模な競技大会を円滑に開催できるよう、京都府や民間との連携を図り、スポーツ施設の競技環境と観戦環境の充実を図る。

(3) 生涯にわたってスポーツをみずから楽しむ機会の提供

東京 2020 オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催を契機に、高まるスポーツへの関心を行動につなげるため、市民ニーズに応じた、初心者向けのイベントを充実するなど、誰もがスポーツに身近に触れ、生涯にわたってスポーツをみずから楽しむことができる機会をさらに増やし、市民の健康寿命の延伸に寄与するとともに、スポーツに関する幅広い情報を得やすいしくみづくりを進める。

また、ICT（情報通信技術）の活用などにより、感染症対策に配慮した新しい生活スタイルに適應し、安全・安心に楽しめるスポーツの機会の提供や、その情報発信の充実を図る。

2 スポーツの絆が生きる社会の推進

(1) スポーツを支える組織・担い手の育成

スポーツの楽しみ方や健康に関する指導からアスリート（競技者）の育成のための専門的な指導まで、幅広くスポーツに親しみ取り組むことができるよう、地域や学校等でのスポーツ活動を支える担い手の育成・活動を支援する。

具体的には、市民スポーツの普及・振興に大きな役割を果たす体育振興会、スポーツ推進指導員をはじめとする多様な担い手の確保や育成の支援、実業団や大学等で活躍するアスリートのセカンドキャリアの活用も含めた地域貢献への支援を進めるとともに、スポーツ振興やスポーツによる健康増進に貢献する個人、団体、企業等の表彰制度の充実に取り組む。

(2) スポーツによる共生社会の推進

スポーツをともに楽しむことを通して相互理解を深め、誰一人取り残さない共生社会の礎となる人と人とのつながりを強める取組を進めるため、バリアフリー化など、ユニバーサルデザインの理念に沿ったスポーツ施設の整備・運営を追求するとともに、真のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活、地域活動等の調和）の推進による市民のライフスタイルの変化に応じて、誰もがスポーツに参加できる環境を整備する。

(3) スポーツを通じた多様な主体の連携

各種スポーツイベントを支える市民ボランティアを支援するとともに、指定管理者、体育振興会、スポーツ推進指導員会、競技団体、地域のスポーツクラブ、地域密着型プロスポーツチームはもとより、学校、企業等を含め、スポーツを支える各団体の連携を促進する。

3 スポーツによるまちの魅力向上

(1) ワールドマスターズゲームズ 2021 関西など総合スポーツイベントの開催

ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開会式や競技を京都市で開催することを通じて、生涯スポーツの推進はもとより、市民の健康長寿に対する意識を高め、さらには国際交流や京都の魅力発信に取り組む。また、今後も競技団体等と連携して、国際的又は全国的な規模の競技大会の開催に取り組むとともに、新規誘致を推進する。

(2) スポーツを通じた交流の促進とまちの魅力発信

ランナー、応援する市民、支えるボランティア、企業など、すべての主体が一体となって支え、盛り上げるマラソン大会や全国規模の駅伝大会のほか、都市間交流や国際親善を目的として開催される競技大会を通して国内外の多様な人々、団体等の交流や、スポーツを核に文化、産業、観光、環境、教育などの異なる分野との融合を促進することにより、京都の魅力発信、都市格の向上につなげる取組を推進する。

(3) プロスポーツや競技スポーツへの支援とその魅力の活用

地域密着型プロスポーツチームの振興や、国際大会や全国大会などの大規模な競技大会に取り組む団体への支援を進めるとともに、次代を担う子どもたちや若きアスリートが憧れを抱き、目標となる京都ゆかりのトップアスリートを顕彰するなど、スポーツの魅力を京都の発展に生かす取組を進める。